

事例3 聞き手に配慮した発表をすることに重点をおいた事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 話すこと [発表] イ
- 事例のポイント
 - ①聞き手に配慮したコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせる。
 - ②自分の言いたいことを既習表現で言い換える視点をもたせる。
 - ③ICT端末で生徒が書いた表現を全体共有することで、考えの参考とさせ、表現の幅を広げさせる。また、汎用性の高い表現を中心に中間指導を入れる。
 - ④発表を動画に撮影することで、聞き手に伝わる発表となっているかを自身で客観的に振り返らせる。

1 単元名 Program6 *Live Life in True Harmony* (Sunshine English Course2 開隆堂)

2 単元について (略)

3 生徒の実態について (略)

4 単元の目標

A L Tに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話すことができる。

- ・受け身の特徴やきまりを理解し、日本の世界遺産について、受け身などを用いて、その場所等の説明や自分の気持ちを整理して話す技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・A L Tに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話している。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・A L Tに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話そうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「書くこと」については、目標に向けての指導は行すが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表] [発]	<p><知識> 受け身の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p><技能> 日本の世界遺産について、受け身などを用いて、その場所の説明や自分の気持ちをまとまりのある内容で話す技能を身に付けている。</p>	A L Tに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話している。	A L Tに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話そうとしている。

6 単元の指導と評価の計画 (10 時間扱い)

時	◆ねらい ○活動	評価		
		知・技	思・判・表	態
1	<p>◆単元の目標を理解する。</p> <p>◆A L Tに紹介する世界遺産について基本的な内容を説明する。</p> <p>○教師とのやり取りを通して受け身の表現を理解する。</p> <p>○A L Tに紹介する世界遺産について、学習した表現で基本的な内容をペアに説明する。</p> <p>○自己目標設定を行う。</p> <p>◆写真やキーワードを基に本文の内容を説明する。</p>			



パフォーマンステストに向けて、単元を通して継続的に指導をする。第1時及び第3時では採点基準の「条件1」を満たすことができるように指導をする。

2	<p>○Small Talk</p> <p>○教科書の英文から受け身の表現の使い方を理解する。</p> <p>○読み取った内容を基に写真やキーワードを参考にしながらペアに本文の内容を説明する。</p>			
3	<p>◆ALTに紹介する世界遺産について、より詳しい説明を加えて話す。</p> <p>○教師とのやり取りを通して by~を伴う受け身の表現を理解する。</p> <p>○ALT に紹介する世界遺産について、さらに情報を付け加えてペアに説明する。</p>			<p>「評価についての考え方」</p> <p>本單元においては、第1時から第9時までは、目標に向けて、記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う必要がある。</p>
4	<p>◆写真やキーワードを基に本文の内容を説明する。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○教科書の英文から受け身の表現の使い方を理解する。</p> <p>○読み取った内容を基に写真やキーワードを参考にしながらペアに本文の内容を説明する。</p>			
5	<p>◆ALTに紹介する世界遺産で購入できるお土産について話す。</p> <p>○教師とのやり取りを通して受け身の定型表現を理解する。</p> <p>○ALT に紹介する世界遺産で購入できるお土産を、写真を見ながらペアに説明する。</p>			
6	<p>◆写真やキーワードを基に本文の内容を説明する。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○教科書の英文から受け身の表現の使い方を理解する。</p> <p>○読み取った内容を基に写真やキーワードを参考にしながらペアに本文の内容を説明する。</p>			
7	<p>◆ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、話す順番や内容を整理して伝える。</p> <p>○話す順番を考えることで聞き手により興味を持ってもらえることを捉える。</p> <p>○世界遺産の説明と自分の気持ちを整理したり、わかりやすい構成を考えたりしてまとまりのある内容で話すことができる。</p> <p>○グループ内で発表し、フィードバックし合う。</p>			<p>第5時及び第7時では採点基準の「条件2」を満たすことができるように、ALTに興味をもってもらえそうな情報を付け加える。</p>
8 本 時 (1)	<p>◆ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して表現する。</p> <p>○「聞き手に配慮」がどのようなことかを捉える。</p> <p>○補足説明が必要な表現や複雑な表現を言い換える。</p>			<p>第7時で付け加えた情報を中心に、「条件3」を満たすことができるように、話し手にとってわかりやすい表現に言い換える。</p>
9 本 時 (2)	<p>◆ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して相手に伝える。</p> <p>○班の中で Mini presentation を行う。</p> <p>○班員からのアドバイスや班員の発表を聞いて、再度自身の持ち原稿を修正する。</p>			<p>第8時で「聞き手に配慮」した視点で表現した手持ち原稿を基に、班で練習を行う。班員からのアドバイスをもとにさらに原稿を修正していく。</p>
10	<p>◆ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、わかりやすく魅力的に話す。</p> <p>○相手の興味をひきつける話し方を捉える。</p> <p>○練習を動画に撮り、より良い発表になるようペアで確認したり、コメントし合ったりする。</p> <p>○動画を提出する。</p>	発		<p>◎受け身の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>◎日本の世界遺産について、受け身などを用いて、その場所の説明や自分の気持ちをまとまりのある内容で話す技能を身に付けている。</p>
後 日	パフォーマンステスト		発	<p>◎ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話している。</p> <p>◎ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して世界遺産に関する説明や自分の気持ちを整理してまとまりのある内容を話そうとしている。</p>

7-1 本時の展開

- (1) 目標 ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して表現することができる。
 (2) 準備 パワーポイント、ICT端末、原稿メモ
 (3) 展開 (8/10)

過程	○学習活動 ・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	<p>○Greetings ○Answering Daily Questions ○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTに紹介する日本の世界遺産についてペアに即興で説明する。 <p>○Checking today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して表現しよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> 「聞き手に配慮」とはどのようなことかをペアで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の授業の雰囲気をもたせる。 前時までに書きためてきた表現を参考にさせる。 授業を経て変容していく姿を生徒自身も教師も見取ることが可能となるため、本時の始めに行う Small Talk を生徒自身が動画で記録しておくことも振り返りの有効な手立ての一つとなる。 本時の目標を提示する。 「聞き手への配慮」とは何かを考えさせ、見通しをもたせる。
展開 35分	<p>○Oral Interaction</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師とのやり取りを通してどのようなことに気を付ければ相手にわかりやすい発表となり、興味をもってもらうことができるかを捉える。 <p>T: This temple was built by <i>Ashikaga Yoshimitsu</i>. Do you think your ALT knows <i>Ashikaga Yoshimitsu</i>? Who is <i>Ashikaga Yoshimitsu</i>?</p> <p>S1: <i>Shogun</i>?</p> <p>T: He was a <i>shogun</i>. How do you say “<i>shogun</i>” in English? Let’s check it on the internet. <インターネットで将軍を検索する></p> <p>S2: A general.</p> <p>T: <i>Ashikaga Yoshimitsu</i> was a <i>shogun</i>. A <i>shogun</i> means a general in English. Let me give you another example. 「金閣寺限定で、金閣寺の絵柄が入っているチョコレートをお土産に買うことができます。」 How do you say it in English?</p> <p>S3 : …You can buy <i>Kinkakuji</i> chocolate…絵柄? ・既習表現で言い換えられないかをペアで考える。</p> <p>T: How can you make this sentence simple?</p> <p>S4: 金閣寺だけで金閣寺チョコレートを買えます。 チョコレートには金閣寺が描かれています。</p> <p>T: You can buy <i>kinkakuji</i> chocolate only in <i>Kinkakuji</i> temple. <i>Kinkakuji</i> temple is drawn on it.</p> <p>T: Let’s think about another example. How do you explain 「あんこが入っています。」?</p> <p>S5: あんこがその中にある。</p> <p>S6: Anko is in it. でもあんこはわからないかも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例文を提示しながら、生徒に考えさせる。 日本文化特有の語を使用する場合は、ALTは外国人であることを踏まえ、必要に応じて補足説明をする必要があることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 事例のポイント① 聞き手に配慮しながらコミュニケーションを図ることで相手によりわかりやすく伝えることができることに気付かせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 事例のポイント② 伝えたい表現の1文が長い場合は2～3文に分解し、既習表現で言い換えるように促す。 話し手自身が理解できる英語を使用しないと、聞き手に伝えることが難しいことに気付かせる。 </div>

	<p>あんこの説明を簡単にした方がいいかな。 S7: 「あんこ」という英語があるか確認しよう。 red bean paste S8: Red bean paste is in it.</p> <p>○Checking some vocabulary</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身のメモを見て、補足説明が必要な表現（日本語や日本人にしかわからない表現）を確認する。 辞書やインターネットで調べる。 <p>○Considering contents in a group</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに書きためた表現の中で、話し手としての意味理解が不足しているものを既習表現で言い換えられるようにする。 言いたいけど言えない表現を班で出し合い、シンプルな日本語にして、既習表現で言い換えられるようにする。 言い換えた表現をメモし、ICT端末を利用して提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補足説明が必要なものについては、相当する単語があるなら既習表現の like〜で表したり、“<i>Onsen means hot springs in English</i>”のように説明したりすることもできることを確認する。 机間指導をしながら、共通する生徒のつまづきを確認し、板書による中間指導を入れる。 未習表現であっても、多くの生徒が使用できるものについては教師が黒板に表現を示し、定型表現として紹介する。
	<p>○Considering contents individually</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有されている表現を参考にしながら、自身の手持ち原稿を修正する。 	<p>事例のポイント③</p> <p>ICT端末を活用し、生徒が言い換えた表現のメモを全体に配信することで、他の生徒が参考にすることができる。また、教師が意図的に選び、様々な表現で言い換えさせることで表現の幅を広げることも可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語表現の意味理解が不足していないかという視点で修正するよう伝える。
<p>まとめ 5分</p>	<p>○Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返る。 <p>○Saying goodbye</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次回は聞き手への配慮を意識して班で練習することを伝える。

本時の実際の生徒振り返り

聞き手に配慮して話すことができる。



振り返りの視点：今日の表現は日常のどんな場面で使えそうか。
友達の発言を聞いて、取り入れたいと思ったことはどんなことですか。
うまくできたこと、うまくできなかったことは何ですか。それはなぜだと思いますか。

※「今日は〇〇をしました。」は振り返りではありません。

「聞き手に配慮」ということは、相手が外国人というのを想定して文を作っていかなければならないので、プレゼンのときはもちろんだけど、small talkでやっているほんの少しの会話でも考えられそうかなと思った。理由は、相手と一対一のコミュニケーションなので、その人のことを深く知ろうとしたり、相手にあった質問を考えるなど、常に相手意識をしているからです。うまくできないこととしては、自分はまだ習っていない文章を書いてしまうことがあり、グーグル翻訳に頼ってしまいがちということです。ですがグーグル翻訳ではなく、簡単に違う言葉に言い換えできないかを考えてやるとうまく、聞いている人もわかりやすいような文を構成することができた。

7-2 本時の展開

- (1) 目標 ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して相手に伝えることができる。
- (2) 準備 パワーポイント、ICT端末、原稿メモ
- (3) 展開 (9/10)

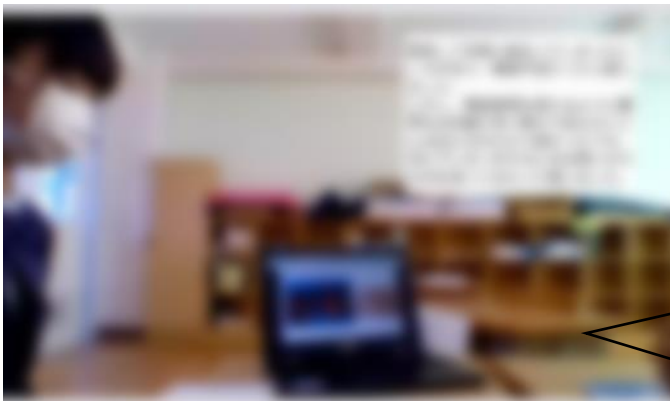
過程	○学習活動 ・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○Greetings ○Answering Daily Questions ○Checking today's goal 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気をもたせる。 ・本時の目標を提示する。
	ALTに日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮して伝えよう！	
	<ul style="list-style-type: none"> ○Practice for the mini presentation <ul style="list-style-type: none"> ・手持ち原稿をもとにして、ミニプレゼンテーションに向けて個人で練習をする。 ○Mini presentation in a group <ul style="list-style-type: none"> ・4人1組で、ALTに紹介する日本の世界遺産の説明をする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○聞き手の視点 Student A:様々な英語表現が使われているかという視点 Student B:聞き手に分かりやすい説明かという視点 Student C:順序立てて話されているかという視点 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を動画に撮る。 ・言語面と内容面についてフィードバックし合ったり、教え合ったりする。必要に応じて動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えるという意識で練習するように促す。 ・言語面では、英語表現に工夫がみられることについて話し合わせる。内容面では、聞き手への配慮が感じられる内容となっているかを振り返らせる。 ・聞き手の視点を明確にし、全ての視点において生徒同士で振り返ることができるようにする。 ・本時での「英語表現の工夫」とは、様々な既習表現を使用していることを指す。 ・本時での「聞き手への配慮」とは、日本に対する基礎的な知識がない聞き手にもわかるような説明があったり、順序立てて話されていたり（第7時の学習内容）することを指す。 ・机間指導をし、全体で共有させたい話し合いをしているグループを確認する。
	事例のポイント④ 発表を動画に記録しておくことで、フィードバックの際に自身がどのような誤りをしていたのかを客観的に振り返ることができる。（動画に残らなければ記憶をたどるしか方法がなくなる。第三者がアドバイスをする際にも、「ここがこういう風に言っているから」と具体的に指摘できる利点がある）	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○Sharing in a class(5minutes) <ul style="list-style-type: none"> ・英語表現及び聞き手への配慮が感じられた工夫を確認する。 <p>S5: 私は似た表現を繰り返し使用していたが、S6はいろいろな表現を使っていた。</p> <p>S7: 私は世界遺産の場所を広島県としか伝えていなかったがS8はその場所がどの辺りにあるのかまで伝えていた。</p> <p>S8: 相手に Are you interested in castles?と聞いていてよかった。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○Revising <ul style="list-style-type: none"> ・手持ち原稿を見返し、修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・似た表現の多用を避けることで発表が単調にならず、相手の興味を引きやすいことに気付かせる。 ・級友の発表を通して、聞き手への配慮に対する新たな視点をもたせる。 ・級友の発表を聞いて良かったところや級友からのアドバイスをもとに修正するよう促す。

まとめ 5分	○Reflection ・本時を振り返る。 ・宿題として動画を見直し、修正したい部分を練習し次回につなげる準備をする。	・動画を見直し、聞き手への配慮について、どのような工夫ができたか、級友の発表を聞いて取り入れたい工夫について振り返らせる。
	事例のポイント④ 動画を見て、自身の発表を客観的に振り返ることができる。また、付け加えたり修正したりした方が良いことを落ち着いて考えられる利点がある。動画は記録として残るので自身の成長を見取ることが可能である。	
	○Saying goodbye	・次回は魅力的で分かりやすい発表になるように練習をすることを伝える。

パフォーマンステスト例

(1) 内容

A L T (外国人) に日本の世界遺産に興味をもってもらうために、聞き手に配慮しながら世界遺産の説明や自分の考えを発表する。単元を通して継続的に指導を行い、パフォーマンステストにつなげる。なお、生徒は自分のICT端末で発表の様子を記録する。振り返りの際に、過去の動画と比較しながら、成長した点を中心に振り返らせる。また、教師もICT端末で生徒の発表を記録しておき、基準が満たされているかどうかを確実に評価できるようにする。なお、「知識・技能」についてはパフォーマンステストでは評価をしない。第10時において、生徒は自分自身のICT端末で発表を録画する。その動画を提出させ、「知識・技能」の評価とする。



以下は実際のパフォーマンステストの動画及び振り返り

緊張して言葉に詰まってしまったところがあり、練習不足だったと感じました。
しかし、既習表現を使えるように簡単な日本語に言い換えて伝えたいことは伝えられたので良かったです。次にプレゼンをするときは問いかけの文を使ってみたいと思いました。

(2) 採点の基準

「思考・判断・表現」については指導したことを踏まえ、以下の三つの条件を満たしていれば「b」としている。

- | |
|---|
| 条件1：世界遺産の基本情報（登録された年、設立年、設立者、場所等）について述べている。
条件2：基本情報以外で聞き手が興味を持つ情報を述べている。
条件3：聞き手が外国人であるという視点をもって話している。 |
|---|

「条件1」の指導については、本単元の第1時及び第3時で指導をする。世界遺産に興味をもってもらうためには、世界遺産がある場所はもちろん、最低限の基本的な情報を伝える必要があることを授業内で指導し、学習する「受け身」の表現を使用して練習する時間を設ける。

「条件2」の指導については、第5時で、A L Tが興味をもちそうなお土産や名産物を付加情報として付け加えさせると共に、第7時で更に興味を持ってもらえる情報（例えば、その世界遺産の場所で体験できることなど）を加えるよう指導する。なお実際の授業においては、聞き手が興味を持つ情報として、第5時で、生徒はA L Tと教師とのやり取りを通して「その場所にある特別なものを買いたい」という情報を手に入れているため、お土産の情報については必ず入れるように指導をした。「条件2」はa評価に関わる条件となるため、指導の際に「詳しく述べたり」「様々な既習表現を使用した

り」の部分を確認し、生徒がどうすればよりよい発表となるのかわかるように留意する。

「条件3」の指導については、第8時で指導を行う。聞き手が日本についてあまり知らないということを前提に必要なに応じて補足説明をする必要があることを指導する。固有名詞を中心に例を示しながら、どのような説明があれば十分かを確認していく。

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	聞き手が興味を持つ情報を詳しく述べたり、様々な既習表現を使用したりして、三つの条件を満たして発表している。	聞き手が興味を持つ情報を詳しく述べたり、様々な既習表現を使用したりして、三つの条件を満たして発表しようとしている。
b	三つの条件を満たして発表している。	三つの条件を満たして発表しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「思考・判断・表現」において、聞き手が興味をもつ情報を詳しく述べる場合には似た表現を繰り返し使用することは考えづらいため、必然的に様々な既習表現を用いることとなり「a」評価となる。同様に様々な既習表現を使用するという事は基本情報以外の情報が複数盛り込まれていることが考えられるため「a」評価となる。

※授業内で「条件1、2、3」の全てについて指導をしているため、いずれかの条件が満たされないことは想定しないが、いずれかの条件が満たされていない場合にはc評価とする。しかし、授業内で提出した動画では全ての条件が満たされていれば、「主体的に学習に取り組む態度」はb評価とすることも想定される。

(3) 「知識・技能」の評価について

「知識・技能」はパフォーマンステストでは評価せず、授業内で提出された動画をもとに評価を行う。

	知識・技能
a	誤りのない正しい英文で話すことができている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。
c	「b」を満たしていない。

※「知識・技能」については主に本単元で扱う「受け身」の表現について評価をすることとする。（「条件1」に関わる部分）「条件2」に関わる部分は様々な既習表現が想定されるため、既習表現についてはコミュニケーションに支障のない程度の英文で話されており、「条件1」に関わる表現が正しく話されていれば「a」評価とする。

(4) 生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を向上させる工夫

生徒と目標を共有し、事前に次のような評価基準（ループリック）を提示することで意欲付けをする。なお、「c」評価にある「周りからの支援を受けたり、メモを見たり」については、度々メモを確認したり、説明が止まってしまう場合を指すことを生徒と確認する。本パフォーマンステストにおいては、西暦を伝える場面が2カ所あるため、一度メモを確認する程度では「c」評価とはならないことを伝えておく。

<生徒に示すループリック>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができている。	聞き手が興味を持つ情報を詳しく述べたり、様々な既習表現を使用したりして、三つの条件を満たして発表している。	聞き手が興味を持つ情報を詳しく述べたり、様々な既習表現を使用したりして、三つの条件を満たして発表しようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文	三つの条件を満たして発表している。	三つの条件を満たして発表しようとしている。

	を用いて話すことができる。		
c	周りからの支援を受けたり、メモを見たりすれば、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	周りからの支援を受けたり、メモを見たりすれば、三つの条件を満たして発表している。	周りからの支援を受けたり、メモを見たりすれば、三つの条件を満たして発表しようとしている。

(4) 採点の実際

1	This is a picture of Itsukushima Shrine. It's in Hiroshima. It was built in 593 by Saeki Kuramoto, a Shinto priest. It was registered in 1996 as a World Heritage Site. If you go to Hiroshima, you can eat Momiji manjyu. It is a famous souvenir in Itsukushima Shrine. It is shaped like a maple leaf. It's so delicious. When you go to Itsukushima Shrine at night, you can see a beautiful view. I think you must go there.
2	This is a picture of Toshogu Shrine. It is in Tochigi. It was built in 1670 by Tokugawa Iemitsu, a general. It was registered in 1999 as a World Heritage Site. You can buy anko monaka for souvenirs. It is made from flour.

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	a	a	a
2	a	b	b

「思考・判断・表現」の採点の考え方

1は様々な既習表現が使用されており、その場所でできることなどの付加的な情報や食べ物についての簡単な説明がされていることから詳しく述べられていると判断し「a」とした。

2は場所の紹介やお土産について述べられており、全ての条件を満たすことができているが、聞き手が興味を持つ情報を詳しく述べているとは言えないと判断し「b」とした。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」については「思考・判断・表現」と一体的に評価している。